

2013年8月30日 全6頁

Indicators Update

7月鉱工業生産

市場予想からは下振れしたが、持ち直し傾向を確認

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年7月の生産指数は、前月比+3.2%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス（同+3.6%）を下回ったものの、前月の大幅な落ち込みを取り戻す高い伸びであり、生産の持ち直し傾向が確認される内容であった。出荷指数は前月比+1.3%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同+1.5%と上昇したことから、在庫率指数は同▲0.5%と2ヶ月ぶりの低下（改善）となった。
- 7月の生産を業種別に見ると、15業種中12業種で前月から上昇しており、総じて強い結果であった。特に、はん用・生産用・業務用機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業など、前月の低下幅が大きかった加工組立業種が高い伸びとなり、全体を押し上げた。
- 先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。新興国経済の減速が懸念材料ではあるが、米国の景気拡大や円安の効果によって輸出数量は増加傾向が続くとみられ、生産を牽引する見込み。さらに、2012年度補正予算による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年			2013年						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
鉱工業生産	0.3	▲1.0	1.4	▲0.6	0.9	0.1	0.9	1.9	▲3.1	3.2
コンセンサス										3.6
DIR予想										4.7
生産者出荷	0.3	▲1.6	3.7	1.2	1.8	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.2	1.3
生産者在庫	0.0	▲0.4	▲1.3	▲1.6	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0	1.5
生産者在庫率	▲0.7	0.0	0.0	▲3.8	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1	5.9	▲0.5

（注）コンセンサスはBloomberg。

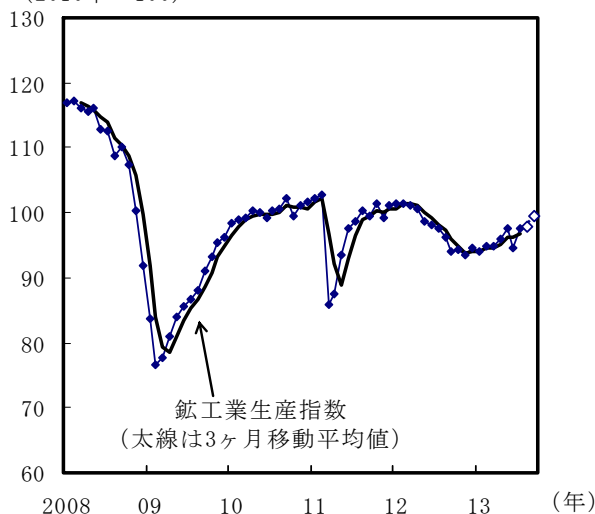
（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は2ヶ月ぶりの上昇

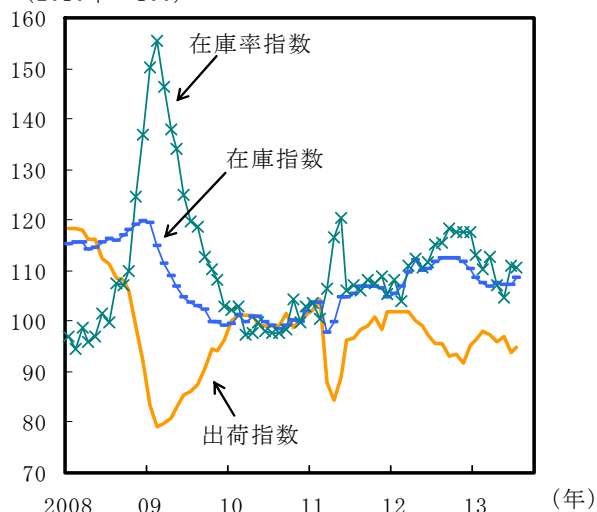
2013年7月の生産指数は、前月比+3.2%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス(同+3.6%)を下回ったものの、前月の大幅な落ち込みを取り戻す高い伸びであり、生産の持ち直し傾向が確認される内容であった。出荷指数は前月比+1.3%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同+1.5%と上昇したことから、在庫率指数は同▲0.5%と2ヶ月ぶりの低下(改善)となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移

(2010年=100) 鉱工業生産の推移



(2010年=100) 出荷・在庫・在庫率



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

7月の生産は加工組立業種が堅調

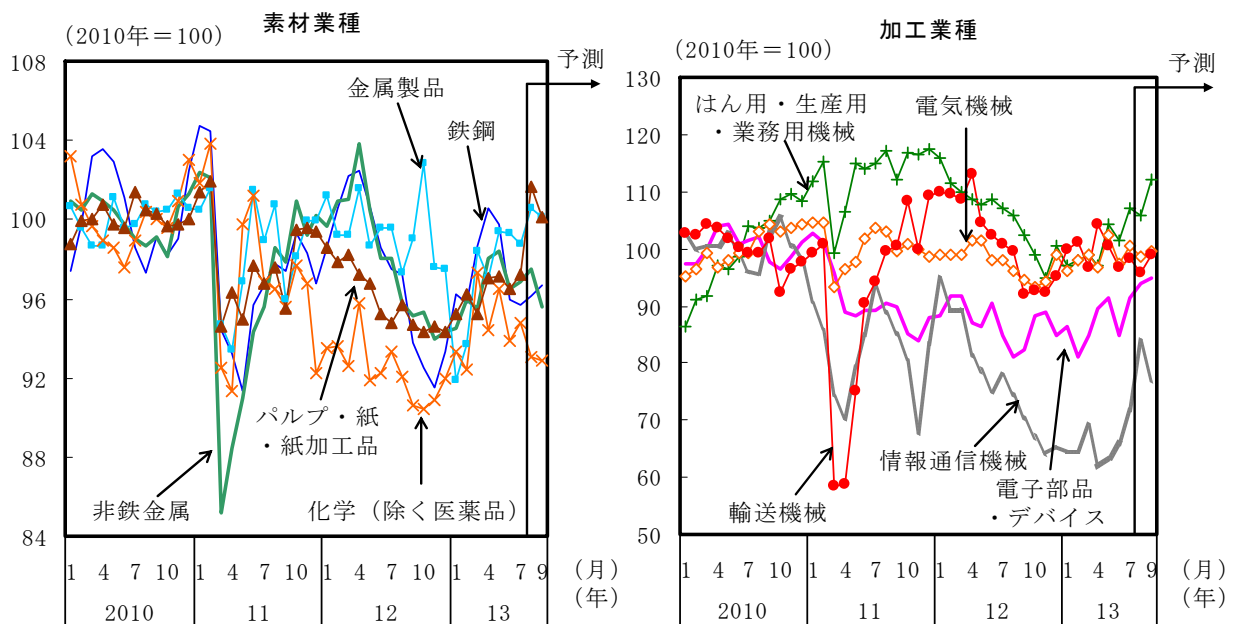
7月の生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種で前月から上昇しており、総じて強い結果であった。特に、はん用・生産用・業務用機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業など、前月の低下幅が大きかった加工組立業種が高い伸びとなり、全体を押し上げた。

はん用・生産用・業務用機械工業は前月比+5.5%と、2ヶ月ぶりの上昇となった。電力用の「一般用蒸気タービン」の増加が全体を押し上げた。電子部品・デバイス工業は同+7.8%と、2ヶ月ぶりの上昇となった。6月に減少していた「モス型半導体集積回路(メモリ)」の生産が持ち直したことに加えて、「アクティブ型液晶素子(中・小型)」の増加が押し上げに寄与しており、スマートフォン関連が主な増加要因となっている。輸送用機械工業は同+1.9%と3ヶ月ぶりに上昇した。国内販売が好調な「軽自動車」の増加が主なけん引役となった。「普通乗用車」についても7月は増加しているが、5、6月に生産が減少しており、均してみれば減速感が見られる。

一方、金属製品工業、繊維工業、鉄鋼業の素材関連3業種では生産指数が低下した。素材業種に関しては、生産指数が上昇した業種でも上昇幅は全般的に小幅に留まっている。

製造工業生産予測調査によると、2013年8月の生産計画は前月比+0.2%、9月は同+1.7%となり、生産の増加基調が続く見込み。8月に関しては、7月堅調であった加工組立業種の多くが減産を見込む中、情報通信機械工業の大幅な増加（前月比+17.0%）が全体を押し上げる見通しとなっている。一方、9月については、情報通信機械工業の反動減（前月比▲8.5%）が見込まれるものの、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業の高い伸びが押し上げに寄与する見込みとなっている。素材業種に関しては、足下弱い動きが続く鉄鋼業では8、9月とも増産を見込む一方で、化学工業では2ヶ月連続の減産を見込むなど、一進一退の動きとなっている。

主要業種の生産推移

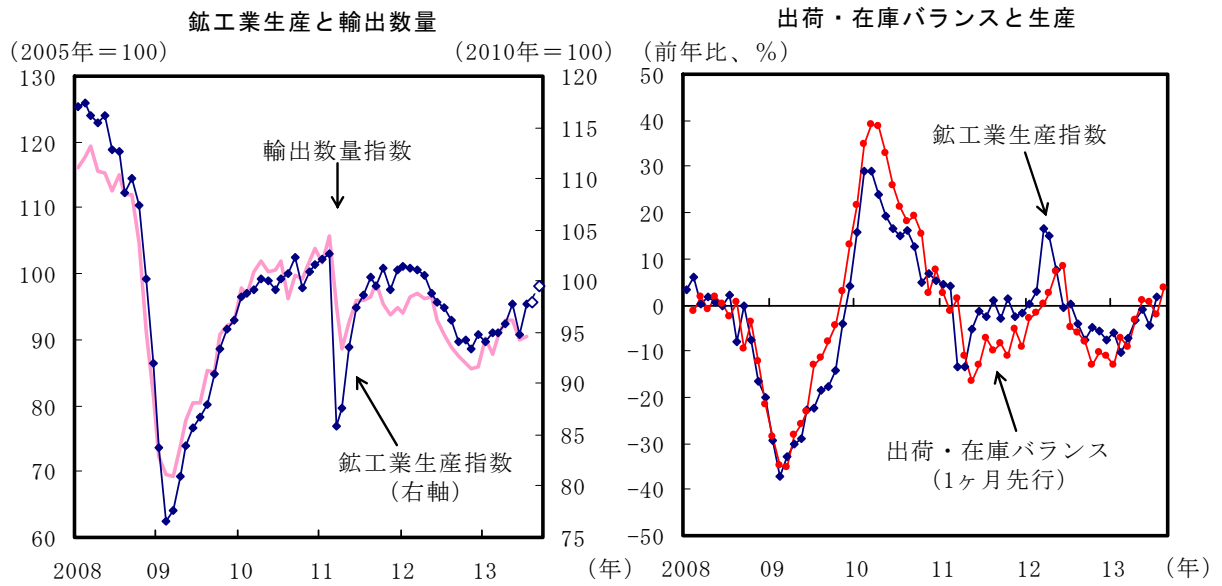


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

生産は輸出の増加に牽引されて増加傾向が続く見通し

先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。新興国経済の減速が懸念材料ではあるが、米国の景気拡大や円安の効果によって輸出数量は増加傾向が続くとみられ、生産を牽引する見込み。さらに、2012年度補正予算による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。

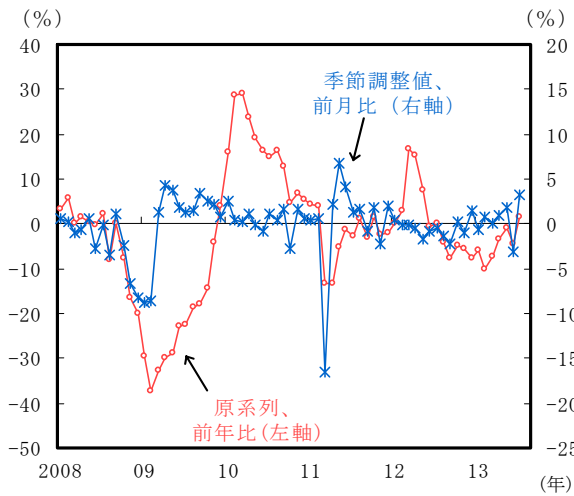
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



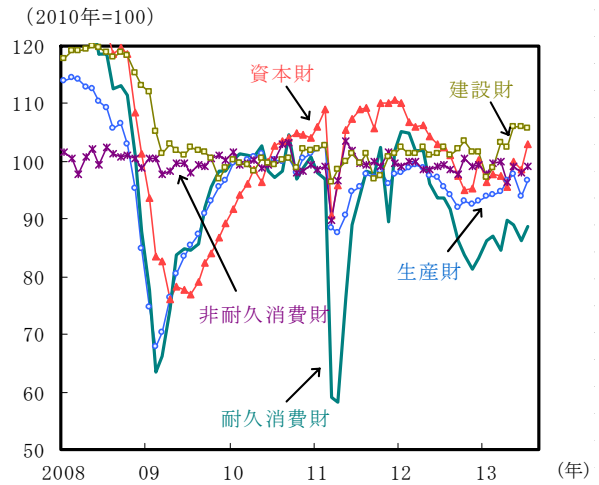
(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
 (出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

概況

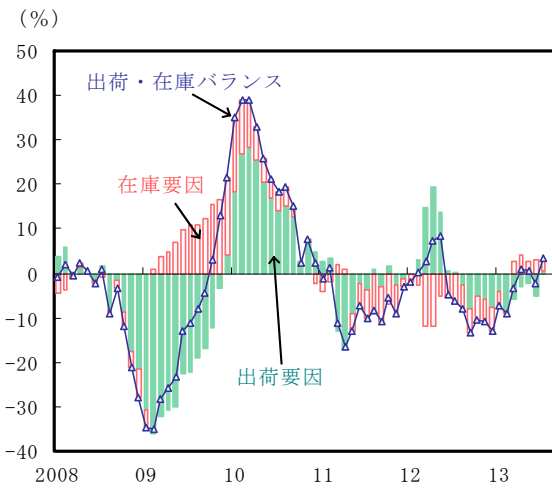
鉱工業生産指数の変化率



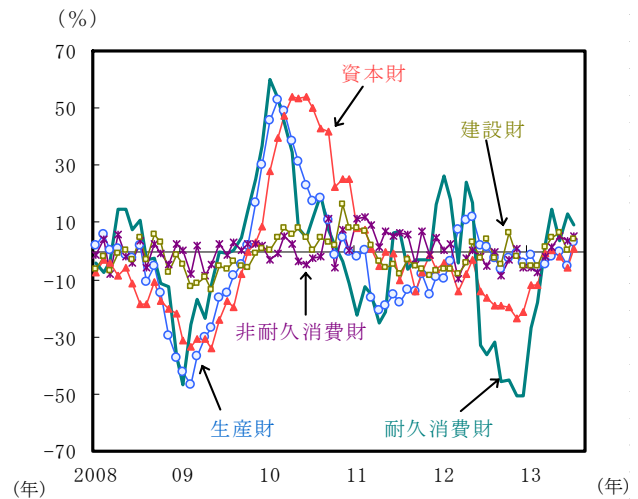
財別の生産指数(季節調整値)



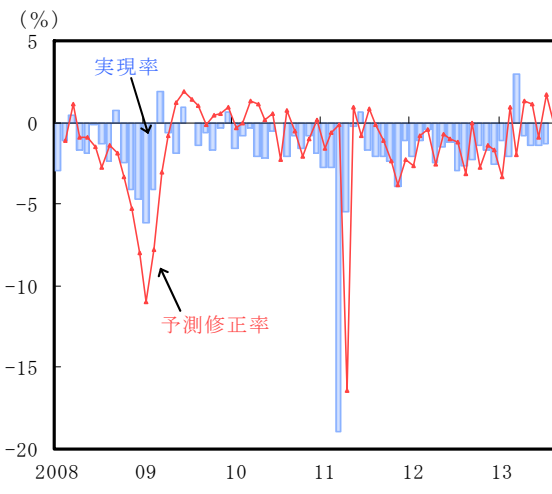
鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス



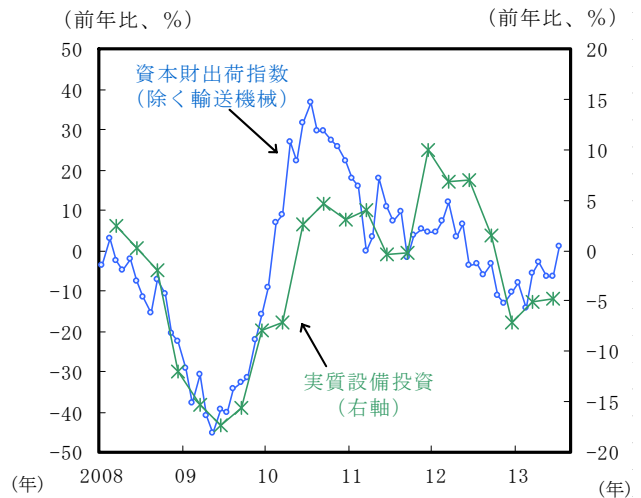
財別の出荷・在庫バランス



予測修正率と実現率

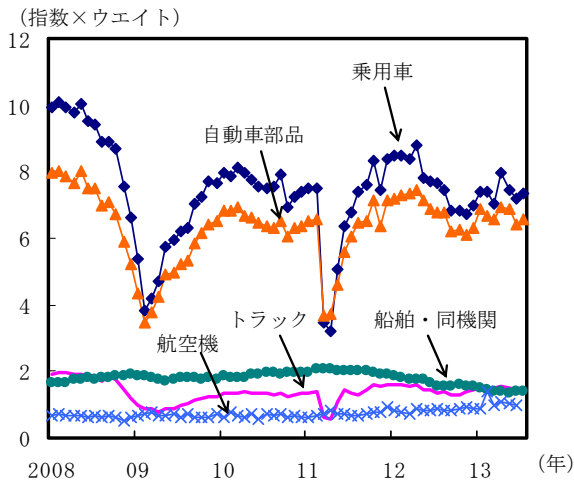


資本財出荷(除く輸送機械)と設備投資

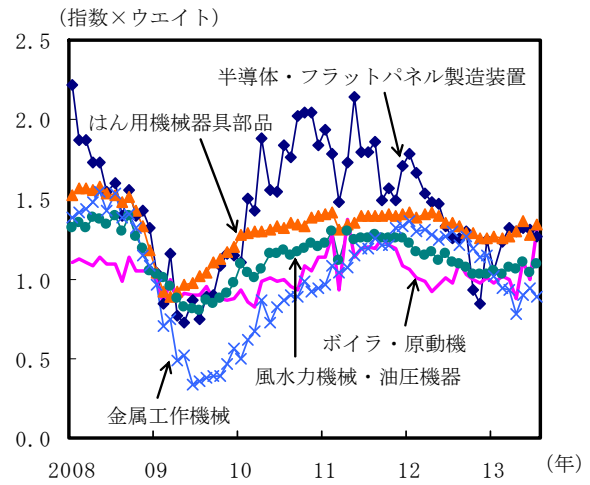


主要産業の生産動向(季節調整値)

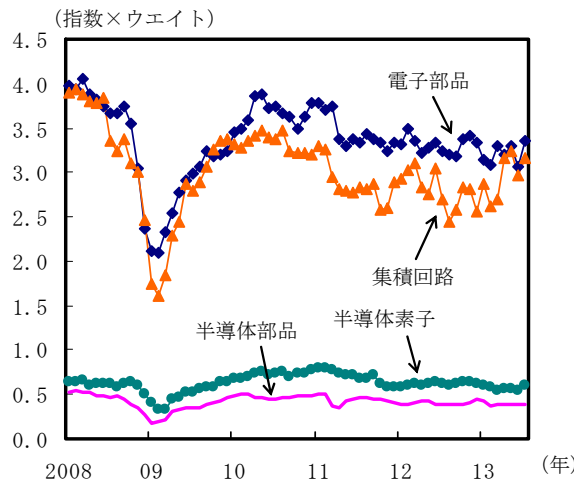
輸送用機械



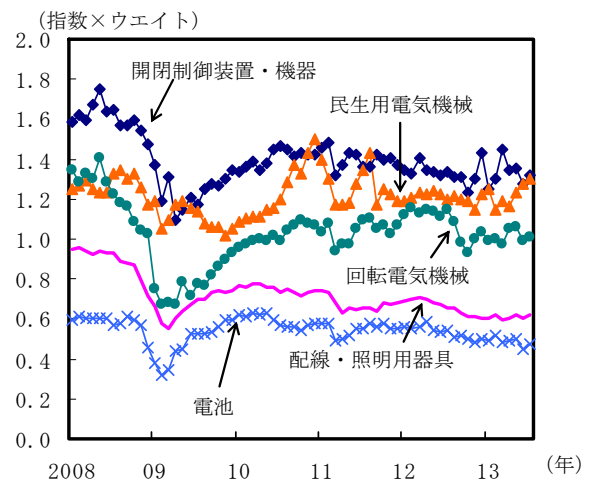
はん用・生産用・業務用機械



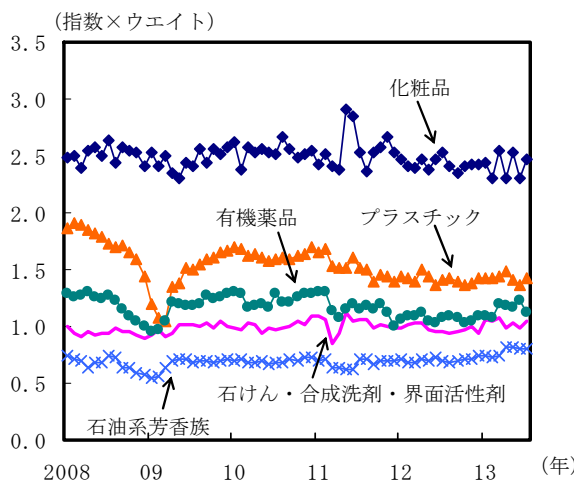
電子部品・デバイス



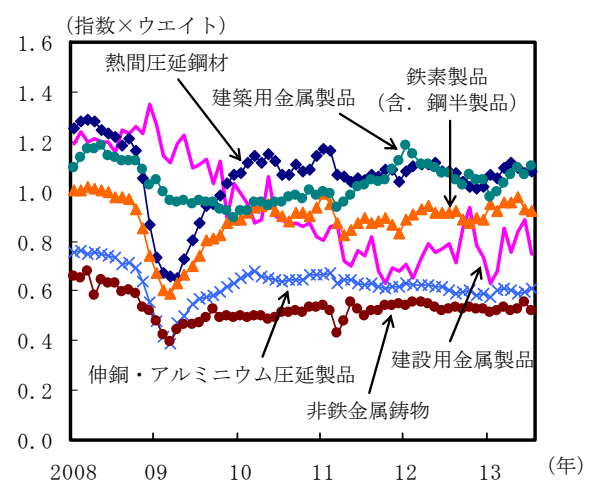
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成